

車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：井口自治会

開催場所：井口公民館

開催日時：平成 29 年 2 月 22 日（水）19 時 00 分～20 時 57 分

参加者：自治会側【地域住民の方 35 人】

市側【染谷市長、牛尾理事、眞部危機管理部長、大村都市基盤部長、三浦秘書課長、駒形戦略推進課係長、山内協働推進課係長、小玉初倉公民館長】

内 容

① 高橋自治会長あいさつ

- ・市長が島田市全体で意見交換をするということで車座トークを実施している。今年、初倉地域が一番最後として、年明けに湯日や月坂から実施している。
- ・このような機会を活用して、できるだけ市の様子等を聞き、皆さん一人ひとりお考えいただくことで活用してくれればありがたい。

② 市長からの市政報告

■はじめに

- ・皆さん自覚が無いかもしれないが、全 68 自治会の中で一番大都会が、この井口自治会。ここに来るときもネオンが輝き、店舗がたくさんあり、市内どこの自治会にも無い。賑わいのために通行する車両が多くなり、そのような意味では井口の課題も出てきているのかもしれない。
- ・井口自治会の皆さんは結束力がある。パトロール隊を市内でいち早く立ち上げ、しかも継続して活動している。子ども達の登下校だけでなく、お祭り等の様々な地域活動に率先して加わってくれている。毎年会費を払ってボランティアをやっている人たちで、こうしたことが継続していく地域はそう無い。様々な点で、井口自治会は島田市全体を引っ張ってくれる牽引役だと思っている。
- ・今日で 68 自治会の 63 番目。残り 5 つまで来た。63 番目まで来て、残り初倉 4 箇所と街中に 1 箇所。初倉も 5 箇所を回った。そうした中で一番感じていることは、島田は広いということ。金谷や川根と合併して市域が広がっているが、こうして回ってみると、地域の特徴は個別にあり、川根の中でも違うし、金谷も違う、初倉も井口と湯日では抱える課題が違う。
- ・平成 30 年からの島田市総合計画という将来ビジョンを描く計画や、中心市街地活性化計画、国土強靱化計画、土地利用計画等これから先の島田の骨格となるような計画を策定する。そうした中で、それぞれの地域の課題や特徴、特性について皆さんのご意見を聞くことが車座トークの目的なのでご理解をいただきたい。
- ・市内の小中学校区、中学校区は初倉・六合・金谷・川根で介護保険料と国民健康保険が一人当たりどのくらいかかっているか調べた。初倉は中学校区で調

べているが、65歳以上の方が初倉で3,422人。平成27年度の介護給付費に約5億9千万円かかっている。一人当たり約17万円。調べていくとわかったことだが、地域の方たちが行く場所があり、活動することができる地域は介護保険料が安い。逆に行くところが無く、ボランティア活動も進んでいないところ、特に中心市街地は非常に介護保険料が高くなっていた。このようなことを調べてみると、多いところと少ないところで一人当たり年間10万円以上の差がある。保険や医療でお金を使うなら、まちづくりにお金を使って、皆さんに健康でいてもらった方が良くと思った。

・国民健康保険の医療費も、65歳以上ではないが一人当たりを調べてみた。初倉は平均より少し高い。少し高いが、高齢者の介護給付費が低いため、総合で全14地区の中で5番目だった。自治会単位の細かなものを調べようとしている。それが出たところで各地域にお知らせしたいと思っている。そうしたことを見る中で、自分の地域の活動を見直していただき、独り暮らしの人が多或少ないや子どもの貧困率等がわかってくると、色々なことがやれると思う。

井口自治会の人口、世帯について

・井口自治会の平成29年1月31日現在の世帯数は560世帯、人口は1,391人で、高齢者人口（65歳以上）は321人、高齢化率は23.1%となっている。市の平均が29.6%なので、6ポイント以上高齢者が少ない。15歳以下の人口は209人で、人口に占める割合は15.0%となっている。市の平均は13.7%。交通の便が良く、店舗も多いので若い方が住む地域だと思う。現在、若者や子どもの数が増えているのは、初倉と六合地域だけ。川根地域は高齢化率が4割5割で、子どもの数が一桁台のところもあるため、そうした地域の課題と若者が流入してくる地域の課題は別のものがあると思う。

■これからの行政のあり方、地域の抱える課題への取り組みについて

- ・島田に限らず、日本中で今一番課題となっていることは人口減少。超高齢社会と一緒にいることが問題。子どもが減り、高齢者が急激に増えている。
- ・島田市の医療・介護・福祉の扶助費が、今年一般会計の34.5%となる。一昨年が30%以内、昨年は33%、3%増で10億円以上の金額が違う。
- ・一昨年の資料だが、生まれた子どもの数が772人、亡くなった方が1,156人。出生数と死亡者数の差によりますます人口が減っていく。
- ・同時に労働人口も減るため税収も減る。
- ・皆さんが若い頃は、給料が上がり、家が建てられた、老後の貯金もできた。ところが、今の若者は一生懸命働いても非正規雇用で300万円の壁がある、結婚がしたくてもできない、子どもも持つことができない時代となってきた。
- ・昔は、働く世代がいて税収も上がっていくことが予想されたため、将来の人に負担してもらえば良いという考えで、色々な物を造ることができた。しかし、税収が少なくなる見通しの中で、何でも造っていけば自分の子孫に負担や借金ばかりが残ってしまう。高度成長期には色々な物ができた。島田市にも昭和58年に小学校6校・プラザおおりも造った景気の良い年があった。
- ・ところが、15年前と比較すると、国土交通省が自治体に出す道路関係の予算が3分の1となった。県の予算も3分の1になった。昔は新しいものを造っていけばよかったが、笠子トンネル事故後、インフラの寿命について厳しく言われる時代になり、5年に一度、道路や橋を点検する法律ができた。

- ・島田市は市道 1,180 km、1,152 橋を管理している。5年に一度ということは、毎年 230 橋ずつ、道路も同様に点検し、悪ければ直す必要がある。道路の予算も、今までは新しいものを造っていけばよかったが、長寿命化や維持管理にお金が必要となるようになった。長寿命化等に 4 割、新しいものを造る方に 6 割の予算割合となっている。国も医療費等の社会保障費にお金がかかるので、公共事業を絞ってきている。
- ・昨年、島田市が道路関係のインフラ整備で国に要求した額（社会資本整備総合交付金）の 52%しか予算が付かなかった。現在実施している事業は継続しなければならない。したがって、お金が足りないと今年着工しようと思っていたところを、来年再来年にする時代になった。
- ・このまちを発展させるために何をもって稼ぐか、ここに住んでいる人が安心して暮らし続けられるまちにするためにはどうしたらよいか、皆で考えていかなければならなくなった。
- ・行政も、行政がやらなければならないことは勿論やるが、それだけでは地域の見守り等ができなくなってきた。地域の皆さんの力を借り、地域の課題を皆さんと一緒に解決していく考え方をしていかなければならないと思う。
- ・井口は、パトロール隊が一生懸命頑張ってくれている。別の地域の紹介だが、道悦地区では、高齢者が 1 時間利用券 500 円、ゴミ出し 1 回 150 年のサービス券を使って、地域の方がお手伝いしていただいたときに券を渡す仕組みを実施している。
- ・コミバスが無い地域は、ワゴン車、ガソリン、保険、人件費を市が負担するので、地区内で走るバスを運行する手伝いを検討しているところがある。
- ・湯日では、放課後の子どもを集めて、施設で大人が子どもを見る取り組みを実施している。
- ・そうした様々な取り組みと同時に、一緒にまちをつくるために皆さんに色々な情報を出していかなければならないということが考え方の基本にある。
- ・行政は究極のサービス業の会社だと思う。顧客は皆さん。その経営方針として四つの柱をあげている。
- ・一つ目、市民第一、市民ファーストのまちづくり。
- ・二つ目、事業に成果や効果をしっかり求める。スクラップ&ビルドと言うが、一つ何か新しいことを始めるには、一つ何かを止める気持ちを持って財源の確保をしていく。
- ・三つ目、島田らしさの追求。島田の凄いところを職員一人ひとりが口に出して言えるまちにしなければならないし、皆さんにもそうあってほしい。それが、島田の誇りと自信を生む。
- ・四つ目、市民協働を念頭に置いた事業展開をしていく。
- ・暮らしやすさは目に見えることばかりでない。学校教育では、例えば支援を必要とする障害のある子どもが増えている。学校現場は支援員がいないと授業が成り立たなくなっている。英語教育は、英語を母国語とする先生を置きたい。
- ・平成 29 年度は、ICT で人を呼び込むということで、初倉地域をモデル地域として様々なことを実施してみたいと思っている。その一つが、タブレットを使った授業をおこなう。初倉に専任の外国の英語教師を置いて英語教育に力を入れたい。プログラミングの講座を実施する。藤枝市と組んで 5 年間事業を推進していく。時代が変わっていくので、初倉地域も変わるように力を入れていきたいと思う。
- ・転入して市内に家を建てる人に補助金を交付していた。街中の空き家が多くなり、新築の家を郊外に建てることも重要だが、空き家をリフォームして移

り住んでくれれば空き家対策にも、地域を守ることになる。平成 29 年度は、市内に住んでいる人が空き家を買ってリフォームして住むことでも、上限 200 万円まで補助金を交付する予定。子育て世代を手厚くする。そうしたことをやりながら、このまちに住んでくれる人が多くなれば良いと思っている。

・子育ては大変手厚く、母親ニーズに沿った支援を一生懸命に実施している。県内一子育て支援が進んでいると思っているが、長泉町も同じようなことを言っている。比べてみるとわかるのは、島田市の母親は、第 1 子を産んだ人はほとんど第 2 子を産んでいる。長泉町は第 1 子は多いが、2 子目を産む母親の割合が少ない。全体として子育てしやすい環境は島田市だと思う。更に磨きをかけるような施策をこれから続けていきたいと思っている。

・六合駅周辺は、今年トイレが新しくなり、ロータリーの改修も行っている。数年かけて六合駅南口を変えていきたいと思う。今は車から降りても雨避けもない。タクシーが優先となっており、送迎の車を停めるところが離れている。

・これからの行政は、少なくとも 5 年前の行政とはまったく違うと思っている。任せておけばよいという行政から、自分たちも一緒につくるまちに変ってきている。人口減少、高齢化や社会の変化の必然にマッチしており、その転換が早くできるまちが、将来に大きく道が開けるまちだと思っている。

・四つの経営の柱の話をしたが、他に自分の使命が三つあると思いながらこの 4 年間行政運営をしてきた。

・一つは世代交代。若い人たちが活躍するまちにならなければ島田の発展は無い。10 年先、20 年先のことを決めるのに、60 歳代以上の方が決めていたのでは仕方無い。まちの将来を決める委員会や審議会には、50 歳以下の人たちを半分位入れるようにしている。その時に 50 歳、60 歳で頑張ってくれる人たちが次のまちのことを決めていく、そうしたことをしっかりやりたいと思う。行政の中だけでなく、民間の方たちにも話をしている。民間の若手が頑張っていることについては応援しているし、彼らのやりたいことがやれるように助けている。商工会や商工会議所の青年部、JC も盛んに活動している。特に商工会の青年部は一生懸命。地元を愛する若者が増えるということは大事なこと。

・もう一つは人材育成。予算書には表れないが、もの凄く大事なこと。地方創生の時代と言って、国は全国的に素晴らしい事業、成功している事業のモデルを全国にお知らせしてくれる。それを見たまちで、同じことができるのかということできない。そこには、それをやれるだけの人材がいたからできた。逆に島田は、島田だからこそ、この人がいるからやれることがある。人を育てることが大事。

・市長になり人事異動ができる最初の年に、人材育成のために国土交通省や県東京事務所、被災地等に送り出した職員が、3 年の研修を経て 4 月に帰ってくる。人材育成には時間がかかる。早稲田のマニフェスト研究所や色々なところに出しているし、役所内の人材育成の研修も実施している。市内の若手を育成することも力を尽くしている。

・三つ目は市役所の組織改革や意識改革。職員の仕事の先に市民の顔が見えるのかということに常に言っている。昔のように、今年は基本構想、来年は基本計画、基本設計、詳細設計、工事とやっていたら民間の方たちはついてきてくれない。民間は 5 年先のことが考えられないくらい目まぐるしく変わっているため、私たちもスピード感を持って公共事業をしていかなければならない時代になった。役所の仕事のあり方自体が変わっている。

役所も成果を求められる時代になった。国に要望活動に行くとき、昔は「道路を造ってください。」と言えばよかった。今は、この道路を造ると、周辺にどの位人口が増え、店舗が何件増え、交通量がどの位増すのか、どれだけ地域が変わるのか示さないと予算を付けてもらえない時代。完成後、KPI と言って、本当にそうなったのか調べられて、データで提出する時代。要望活動に行くのも、地元の方々と一緒に行くと非常に効果がある。先ほどの東町御請線は、

昨年国の予算を削られて大変苦労した。六合の地元の方々と一緒に国土交通省をまわってもらった。そのくらいやっていると予算が付かない時代となっていて、昔と大分変わってきていると感じている。

初倉地域の基盤整備について

- ・はばたき橋から牧之原市坂部につながる空港アクセス道路について、初倉側は順調に測量等が進んでいる。県に確認したところ坂部側の用地交渉が進んでいないようだが、事業着手しているので多少時間がかかってもアクセス道路ができる。
- ・谷口中河線、色尾大柳線も順調に進んでいる。両道路の交差部分に、島田市初のラウンドアバウト（信号機の無い環状交差点）をつくる計画でいる。
- ・みどり幼稚園の跡地は、地域の皆さんにも草刈等の支援をいただいている。今後の使い方について、地域の皆さんから公園、道の駅、公共施設を集約する場所等の話をいただいているが、今のところ決まっていない。
- ・県道と跡地の間に家庭菜園があり、県道と繋がっていない。繋げて使うことになれば、家庭菜園の土地も買わせていただかないと使用できない。

■新東名島田金谷インターチェンジ周辺の開発について

- ・金谷インター周辺に賑わい交流拠点を造ろうとしている。JA大井川が主体となり日本一広いマルシェ、大井川鐵道の新駅、島田市としては新東名下に広い駐車場をつくり奥大井につながるお客様の出発点としたい。
- ・高速バスの事故後、日帰り旅行で一人の運転手が運転できる距離が500kmまでになった。川根温泉は500kmを越えるため、観光バスが減った。往復500kmの境界が金谷インター周辺。バスを停めて電車で川根に行ってもらいたいことを考えていきたい。
- ・賑わい交流拠点は、JAが主体となって造るということで、農業で地域を元気にしたいというコンセプト。大井川流域、藤枝市や焼津市も含めて様々な農産品を売ると聞いている。
- ・島田市は島田市緑茶化計画の中で、お茶を売る場所、飲んでいただける場所、お休みしていただける場所をつくっていこうと思っている。
- ・金谷インター周辺は、84ヘクタールの農振除外をしようとしている。昔なら出来ないような広い土地を一度に除外することだが、平成29年3月末または4月上旬に除外できそうなところまでできた。同じことを牧之原市や藤枝市もしているが、それに先駆けて大きな土地を除外することができたのは、国や県の協力の賜物だと思っている。市も、県に人を送り専属で働いてもらってそこまでたどり着いた。
- ・今年は、道路等のインフラ整備をしながら、金谷インター周辺整備、工場誘致ができるような整備をして、平成30年頃から企業誘致、雇用創出という形で稼ぐ拠点をつくっていきたいと思う。

■蓬萊橋周辺整備について

- ・もう一つの稼ぐ力は観光だと思う。蓬萊橋周辺に何もできないと長いこと言われており、国土交通省の許可をいただけないのが現実だった。国土交通省

も規制緩和の中で、かわまちづくりミズベリング協議会をつくり計画を立てれば許可をするということで、昨年からは初倉の方にも参加していただく協議会を開催している。蓬莱橋の番小屋周辺にお休み処、物品販売所、トイレを整備したいと思っている。

・今年1年で終了する話ではなく、花壇、散策路や駐車場等も整備しながら、蓬莱橋周辺を観光の拠点にしたいと思う。ミズベリングは、蓬莱橋から博物館までの間を指定したので、その間で様々な事業を実施していく。いずれは蓬莱橋右岸側にも、何らかの誘客のための整備をしたいと思っている。

■新病院の建設について

- ・金谷インター周辺整備ともう一つ大きなプロジェクトで実施しているのは新病院。新病院は、平成32年度の開院を目指している。
- ・地上7階建の建物。屋上にはヘリポートがあり、救急医療に対応する。病床数は445床を計画している。今の病床より少なくなっている。少なくなるのは療養病床。
- ・病院（施設）から在宅へという流れの中で、国も団塊の世代が75歳以上となる2025年を目指して、病院を高度急性期、急性期、慢性期、回復期のどれに該当するのか指定するようになってきた。新病院は、急性期の病院として運営していくことを鮮明に出した結果、療養病床が無くなる。だからといって、すぐに退院してくださいとはならない。療養病床がなくとも、一般の病床で今まで通り看させていただくので安心してほしい。
- ・病院が立派にできても、医療機器がどんなに素晴らしくとも、医者がいなければどうしようもない。京都大学からは、「島田に医師を派遣することが難しい」と言われている。京都大学の学生も関西圏から出たくない。昔は、医局制度で教授が研修医の行き先を決めていた。今、研修医は自分で行きたい病院を探すため、大都市圏に医師が集まってしまうのが現状。
- ・島田は浜松医大との連携を深めている。就任以来、定期的に浜松医大に行き、院長や学長に会い、浜松医大から安定的に医師を派遣していただける体制をつくるよう努力している。
- ・今も、浜松医大からの副院長がいるが、4月にはもう一人浜松医大から副院長が就任する。先日、藤枝の麻酔科の先生が若手の医師を連れて島田に移ってくれた。藤枝市も浜松医大と連携を深めている。島田市も浜松医大と連携を深めていくことは、志太の中での連携が深まることである。
- ・島田は、ダヴィンチという、最先端技術による手術支援ロボットを導入した。県内では8病院に導入されているのみ。さらに、島田が導入したダヴィンチXiという最新機種は、県内市町の病院では、中東遠総合医療センター（掛川市・袋井市）と島田しかない。手術できるのは腎臓ガンと前立腺ガンと聞いているが、そのために他で治療していた方が島田に移っていると聞いている。医療機器で良いものがあることが医者を呼び込む力になるので、病院と医療機器、医師の確保を図っていきたい。

待機児童対策について

- ・島田市は、保育園の待機児童は特に0～2歳児が多く、3歳児以上は待機児童がいない。
- ・平成29年度中に0～2歳児の子どもたちを預かる保育園を新しく造る。小規模施設も合わせて0～2歳児の定員を82人増やす。平成30年度までには待

機児童ゼロをかなえたい。最優先の事業として待機児童ゼロを目指している。

- ・同時に、放課後児童クラブが次の課題で待機児童が多い。
- ・場所も問題だが、支援員も見つからない。時間給千円。しかし、3～4時間の仕事であるため、フルタイムで働きたい方には難しい。なかなか夕方の時間帯で働いてくださる方はいない。男性でも、60歳以上でも結構です。体力に自信がある方は、子育て応援課に連絡をしていただければありがたい。

■事前の質問に対する回答

番号	事前質問内容	回答内容
1	<p>■最終処分場の現状と今後の対応についてお聞きします。</p>	<p>●震災後、初倉の皆さんに大きな心配を抱かせたガレキの熔融飛灰を処分場に埋めたことだが、埋めた場所を 2.5mから3m掘り下げて、全部掘り出してゴミの放射線量を調べた。その結果は、島田市内の一般家庭ゴミと同等若しくはそれ以下だった。放射線を含むような物を埋めていないことがそれで明らかだと思う。</p> <p>それでも地権者が心配だと言うため、放射線を遮断するゼオライトシートで埋めた所を全部巻いた。毎月放射線量を測り公表もしている。ありとあらゆることを実施する中で、埋めたものは安全だったと確信している。</p> <p>しかし、そこに至るまでに市民の皆さんにどれだけ説明をして、納得していただいて実施したかということについては課題があり裁判になった。平成27年7月31日に島田市側敗訴、土地を返さないという判決が出た。普通は、行政は負けると控訴するが、控訴の時間を費やしても結果が同じならば、早くに結審して地権者の皆さんと和解に至る話をしたいと思い、色々な話をさせていただいた。</p> <p>処分場は県の許認可が平成29年3月31日までとなっている。今後も使い続けるためには、平成29年4月以降の県の許認可を得なければならない。そのためには、地権者全員の同意がないと継続して使うことはできない。反対地権者の方も、何人かは今後も使って良いと言ってくれた。もう返してくださいという方もいた。色々な方がいる中で、全員納得していただくことができなかった。最終処分場という一団の土地は、全員の同意が</p>

		<p>得られないと使用許可の更新ができない。したがって、平成 29 年 3 月 31 日で飛灰を埋めることは止めることにした。当面の間は、外出しにする。外出しは、市所有の最終処分場ではなく、民間の産廃の土地や市外の場合もある。牧之原市、吉田町、藤枝市、焼津市も外出しをしている。自前の処分場を持っていたのは島田市だけだった。</p> <p>島田市も災害時等を考えると自前で持っていた方が良い。そのためには、今後 20 年くらい使える広さが必要。調整池で水を貯め、安全な水を流す川の問題、飛灰を運ぶ道路の問題、周辺の住民の皆さんの問題、こうしたことを全て納得していただいて、新しい最終処分場を作ることは簡単ではない。一昨年から候補地を探している。候補地は挙がるが、どれも適地と言えない状況の中で今回外出しになった。</p> <p>議会からは、外出しをすると高くなると言われているが、逆に費用は安くなる。自前で持っているより安い。そうした中、川ざらいの土砂も捨てる場所が無くなった。4 月から川ざらいの土砂も外に出すことになる。当面の間は、外部の民間業者に飛灰を引き取って処分してもらうことになっているが、これからも適地があれば調べていきたいと思う。</p> <p>今の最終処分場は、3 月 31 日で止めるが、その後は土を入れて返す。県が数年かけて安定した土壌・排水であることを確認して、閉鎖の許可ができるまで島田市が管理していく。早ければ 2、3 年、時間がかかれば 4、5 年ということ。その間、管理はしていくが捨てることはない。</p>
2	<p>■島田市の政務調査費の状況についてお聞きします。(例：白紙領収書は有効か?)</p>	<p>●全国的に政務調査費の課題がある。島田市も数年前に政務調査費で揺れたことがある。議会も公費については厳しく対応している。政務調査費は、毎月 40～50 万円も出るところもあるが、島田市の政務調査費は年間 20 万円。</p> <p>島田市の政務調査費は、4 月に渡して、翌年 3 月に領収書を添えて余ったお金を返す方法で実施している。</p> <p>平成 27 年度の実績は、議員 18 人に合計 3,026,419 円、一人当たり 168,134</p>

		<p>円を交付した。当然、宛名が空欄や後で書き加えたものは無効になる。金額、氏名、発行者住所等が無ければ無効。</p> <p>今までも市役所や各支所の情報公開コーナーで公開していたが、平成29年度から領収書を含めた政務調査費に関する書類を市のホームページに掲載して、皆さんに見てもらえるように更に改善していく。</p>
--	--	---

③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1	<p>■市民病院の駐車場について</p> <p>月1回市民病院に行くが、時間によっては駐車場が常に満車で、近隣の店舗に置くことがある。駐車場はもう少しどうにかできないか。</p>	<p>●新病院は、今より多い約960台が駐車できる。ただし、今も問題は不法駐車。入院患者が自分の車で来て入院していたり、待合場所にして車を置いてどこかに行く。そのような方々が後を絶たない。毎週確認して注意書きの紙を貼っているが、個人の財産を強制撤去できないところで困っている。ゲートを造る話もあったが、入口が多すぎてゲートで塞ぐことも費用の面から難しいのが現状。病院の建設中も駐車場でご迷惑をかけないように、職員駐車場を中央公園に移して、病院周辺の民有地等を借りて駐車場にしたい。</p> <p>道路も右折レーンが無いため渋滞している。新病院では右折レーンを設置していきたいと思う。</p>
2	<p>■震災時の避難者について</p> <p>大きな地震で東名高速道路が通行止めになったとき、運転手が降りてくる。井口地区の人口と同じくらいの千人近い人が初倉側に押し寄せる。防災訓練で地域の自治会は中学校に避難しているが、その人たちをどのように対処すべきか。即答できなくても結構だが、防災に盛り込んでおいてほしい。</p>	<p>●避難計画や防災計画に課題として位置付けられている。</p> <p>東名高速道路は、大きな災害が起これば緊急車両専用になり、発災直後は降りなければならなくなる。吉田インターで降りた車両は、海方向に行かず島田側に来ると思う。避難所に外からの人が大勢押し寄せてくる。</p> <p>新幹線も同じで1便が停まれば約千人が、基本は車両内になることになるが、長引けば外に出てくる。最終的にお客様の責任を持たなければならないのは、それぞれNEXCO中日本とJR東海だが、一時入ってくる避難者</p>

に対して食料を渡す必要がある。市も備蓄品を含めて、他から入ってくる避難者の対応を考えている。できるだけ早くにそれぞれのところに戻ってもらうことが基本なので、NEXCO 中日本やJR東海の協力をいただきながらやることになる。

その不安なところを危機管理課が説明に来ることもできる。説明会を開いてもいいし、自治会長に話をして会長から広めてくれてもいい。市の考え方を伝えたいと思う。

初倉は、浜岡原発から20km前後の距離。昨年7月、UPZ圏内（原発から31km圏内）で地元4市（御前崎市・牧之原市・掛川市・菊川市）を除いた7市町が、県と一緒に中部電力と安全協定を結んだ。この安全協定の骨子は、原発の再稼働の事前了解が担保されるかどうかの話が、皆さんが一番気にするところ。元々、地元4市が結んでいる安全協定も浜岡原発ができたときに結んだ安全協定なので、東日本震災のような事故は想定していない。そうした意味での安全協定の中に事前了解は入っていない。ネジやポンプを替える等の一つ一つに、事前に説明して了解をもらって替えることが事前了解。地元4市が結んでいる協定にも文言が無く、附則の下の方に部品の交換や新しいことをするときには事前に了解を必要とすると書かれているだけ。

今回我々が結んだ事前了解の安全協定は、地元4市に準じるということで結んだ。地元4市は立入調査をすることができる。我々はそれに同行できることを文言で盛り込んだので、ほぼ同じ行動ができる。

もう一つは、措置の要求に係る通報と言って、調査したときに何かあったときには、その内容を中部電力から地元4市だけでなく我々にも必ず連絡する。今まで地元4市だけだった。こうした立入調査の同行や措置の要求に係る通報。措置の要求は地元4市なので、それを教えてくれる、通報してもらおう我々の地域、こういったものは、地元4市の協定に準じて実質的には事前了解が担保されるという難しい協定になっている。しかしなが

		ら、これを結んだことにより、県や地元での事前了解が無ければ、他県のように簡単に県知事が認めたから再稼働できるという問題ではないだろうと思う。静岡県はUPZ圏内の市町がそろって協定を結んでいるとご理解いただければと思う。
3	<p>■はばたき橋周辺の道路整備について</p> <p>はばたき橋に通じる4車線の道路ができて、藤枝に行くのに便利になった。一方、中央分離帯ができたので、南北の4m道路に右折できなくなった。迂回する車が多くなった。道路幅が狭くて、迂回する車が抜けるのに、どちらかが待っていないとならない。道路ができたことは良いが不便になった。道路を改修することは大変だが、斜めの側壁を真っ直ぐにしてくれればスムーズに擦れ違いできる。この地域の発展につながると思う。その申請は、どのような方法をとるべきか。</p>	<p>(都市基盤部長から)</p> <p>●一度自治会として要望書を出してほしい。市で調査をして、出来るのか出来ないのか、どのような対策があるのか研究したい。</p>
4-1	<p>■道路の右折レーンについて</p> <p>はばたき橋に繋がる道路で中央分離帯ができたが、右折車線のレーンをもう少し長くできないか。大型車両が2台続くと、右折の車も直進の列につかなければならない。夕方には渋滞している。</p>	<p>●取次ぎはするが、要望をいただく車線・信号機・横断歩道・歩道のこと、すべて警察になる。行政は、お願いはできてもそれを決めることはできない。信号機の要望を地元からいただいてもお願いするばかり。一昨年井口に信号機が1機付いたが、市内全域でたった2機しか付かないうちの1機だった。警察でも信号機が付かなくて、逆に手押し式信号機で稼働率が悪い信号機は別の所に移設する話が出るような状況。</p> <p>右折レーンを長くできるかどうか、交差点の大きさにもよると思う。</p>
4-2	<p>■道路を造る前の設計図面で、右折レーンが短いのではないかと要望した。</p>	<p>●警察に話をしてみる。</p>
5	<p>■県道の歩道について</p> <p>最近整備された歩道(ナフコから南側等)は広くて綺麗。井口地区の県道の歩道は狭いところがある。花壇があることで狭くなっている。高校生等が自転車で通るが、段差で自転車のハンドルが取られることもある。はばたき橋ができてから交通量が増えたので危険である。</p>	<p>●自治会から要望を上げていただいて、現場を見させてもらう。</p> <p>県道なので、島田土木事務所に話をしないとならない。</p> <p>自転車は車道側を走るようになった。今後も、花壇や並木が不要であれば取ることも考えていく。初倉の話ではないが、アピタ前の横井の道路は、並木がエンピツのようになっており、葉が色付く前に切られている。地元は、「雨どいに詰まる。」「滑って転ぶ危険がある」と言う。それなら街路樹</p>

		<p>を無くした方が良い。緑の憩いの場という意味もある。最近の新しい道路は、低木を植えて大きな木を植えないところもあるし、花壇のようなものだけにするとところもあり、どこも街路樹というわけではないが、街路樹のあり方や歩道の花壇のあり方を一緒に考えていかないと変わってきていると思う。</p>
<p>6</p>	<p>■ふるさと納税について ふるさと納税の島田市の状況はどうか。 利益がマイナスとなったため、止めた自治体があると新聞報道された。</p>	<p>●ふるさと納税は、皆さんが思うほど市の利益になっていない。逆に自治体の半分が赤字になっていると思う。焼津市が全国2位で頑張っており、島田市も頑張れと言われるが、島田市の実績は平成28年度約1億円。1億円は全国的に見れば多い方。例えば、寄附1万円で5千円分を返礼している。半分は返礼品として島田市内の物を買っている。そういう意味では地域振興になっている。郵送料や「ふるさとチョイス」(ネットサイト)の手数料等がかかっている。</p> <p>所得によって違うが、ふるさと納税1万円をした場合、8千円分が所得控除となる。皆さんが他市に寄附をした場合、島田市は皆さんの税金を控除しなければならない。島田市の利益率は2割未満だが黒字。赤字のところがたくさんあり、横浜市は平成26年の統計で約61億円の赤字。寄附を受けているところもそれほど利益があるわけではない。島田市も寄附額は1億円だが、皆さんがどれだけ他市町に寄附しているのか考えなければならない。このことを考えると危機感がある。総務省も行き過ぎたふるさと納税には警鐘を鳴らしているが、少しやり方を考えていかないとならない。島田市は地場産品を売る意味では効果があるが、全国的には海が無いところが海産物を返礼品にしているところもある。他所から買う物でも市内の店を通して買えば良いということで、フランス製の時計を返礼品にしているところもある。お買い物サイトのようにってしまった。どこまでルールを守っていくかということもあると思う。島田は、島田市内で生産された物を送ることを基本としている。一番人気は神座みかん。</p>
<p>7</p>	<p>■市民会館跡地の土地利用について</p>	<p>●市民会館は、耐震性が無いため更地にして、今年駐車場が出来上がった。</p>

	<p>今は市民会館を解体して更地になっているが、今後の土地利用をどのように考えているのか。</p>	<p>市民会館は、耐震性が無く築 50 年になるところを壊した。市役所も築 54 年、コンクリートの寿命が 60 年といわれているなかで、そろそろ考えなければならない。プラザおおりは、今年 35 年になる。こちらも長寿命化すればまだ 20 年～30 年使えると思うが新しくない。北側には駐車場や中央小公園があり、全体で 34,000 m²ある。</p> <p>こうした土地を今後どうしていくのか検討するため、市役所周辺整備検討委員会を 1 月に立ち上げ、急ピッチで会議をしている。市役所と市民会館の複合施設にするのか、市民会館の機能だけを建て直すのか、様々なことを検討して、今年秋頃には、いつ頃建てるのかだけでも方向性を出したいと思っている。</p> <p>金谷と合併して 10 年経ち、合併特例債も減らされている時代。約 12 億円減る。そうした中、合併特例債は平成 32 年までしか使えない。平成 32 年までに建物が完成するなら、7 割が特別交付税措置される。例えば、70 億円の建物なら自己負担約 20 億円ができる。しかし、平成 32 年を過ぎると、別の補助金や交付金を考えなければならない。いつ建てるのかということは、財源をどこから持ってくるかと併せて考えていかないと行かない。</p> <p>しかし、自前で建てるという考え方だけでなく、PPP や PFI と言われているが、例えば、下層に市役所、上層がマンションでもいい。民間会社に建物を建ててもらい、そのかわり上層を 20 年間使ってもらって財源を確保するやり方もある。東京だとマンションでも売れると思う。ショッピングセンターと合わせると言っているところもある。全額公費で建てるのか、そうした民間活力を使って市民会館機能や市役所を整備していくのか色々な考え方があると思う。それも併せて検討している段階。</p>
<p>8</p>	<p>■お茶の郷について</p> <p>以前、ハラダ製茶が運営していたが、お茶の郷の現状はどうなっているのか。</p>	<p>●ハラダ製茶が、5 年の契約で指定管理を受けて売店を運営してくれていた。約 2 年残りがあったが解約をさせていただいた。島田市も平成 28 年 6 月 1 日に県に移譲した。県は、今年 1 年大規模なリニューアルをしたいと言っている。ふじのくに茶の都ミュージアム（仮称）という名称で、平成</p>

		<p>30年3月から県の博物館として、全国や世界にお茶の魅力を発信し、学芸員も充実させながら運営していくと聞いている。</p> <p>売店等で地元の方を雇用していただくことは県にお願いしている。</p>
9	<p>■金谷中学校跡地の利用方法について 金中跡地の利用方法は決まったのか。</p>	<p>●金中跡地は、一昨年アイデアコンペを実施し、全国から24作品が応募された。第1位は、富士見の湯（温泉を掘ること）だった。24作品に共通しているコンセプトは、癒し・健康・食だった。こうしたコンセプトを踏まえ、昨年は有識者会議の中で跡地利用の事業方針を示していただいた。その後、全国的にマーケットサウンディング（市場調査）を実施している。全国から関心のある企業等にきていただき、現場を見て、どのように使えるのか様々な提案を集めている。平成29年度には事業コンペまで実施したいということで、県と一緒に進めている。10年後の島田市は大きく変わっていると思う。</p>
10	<p>■吉田町へのゴミ搬出について ゴミを直接持っていく場合、田代の焼却場になる。島田市の南端の井口地区は吉田町に持っていく方が近い。吉田町で焼却できるものは絞られてくると思うが、吉田に持っていくことで島田市と提携はできるのか。持っていくには遠すぎるため要望したい。</p>	<p>●吉田町との話の中で、相互に実施することになればできるかもしれないが、恐らく吉田の方が田代に持っていくことは無いと思う。こちらが一方的に利用させていただく話になる。もしそうした時に、吉田町が市外料金を設定して了解してくれるのか、やはり町民だけ利用できるとするのか、環境プラザのような施設については即答できない。</p> <p>図書館のような施設は相互利用の協定を結んでいるため、島田市民が吉田図書館で本を借りることはできる。ゴミの方は、それぞれのところで処理するという基本の中で実施していると思う。少し調べてみる。</p>
11	<p>■合併特例債について 前市長が合併特例債のことをよく言っていた。その時の借金があり、今の市の借金はどの程度か。どのくらい返したのか。</p>	<p>●平成29年度中には、新市が誕生してから初の300億円台となる。昨年からは今年にかけて14億円の借金を返している。ここ3年間で約21億5千万円を返しており、大分借金が減っている。</p> <p>借金を減らすことと、基金を積み立てることをしっかりやる中で、方向転換をする余力を貯めてきた4年間だった。病院、インター周辺、金中跡地、小中学校の老朽化、市役所等、お金がかかることが目白押し。長期的ビジョンを持ちながらやるためには、一度しっかり舵を切り直してきたこ</p>

		<p>の4年間だったと思う。</p> <p>平成29年度の市税は、昨年より約2億1千万円収入が増え、合併後12年目になるが最高額を予定している。中長期的には、財政の健全化を目指していかないとならない。必要な物をどのように造り、どのようにまちを変えていくのかということの中では、お金も使っていかなければならない。ただ、その使い方は、中長期的な目途を持ってやっていかないとならない時代になったと思う。ある程度の財政健全化の方向では、流れは変えられたと思っている。</p> <p>市の税収は、2010年と2020年を比較して、自然減で約8億円減る見通し。合併算定替と言って、金谷と合併し、今までは2つ分の地方交付税を貰っていた。しかし、合併して10年経った平成28年度から、5年かけて島田市という新しいまち1つ分に減らしていくと言われている。これが約12億円減る。税収減8億円と合併算定替で減る12億円と合わせると、2010年と2020年で約20億円収入が違ってくる。財政の切替はしっかりやっていかないとならないと思う。</p> <p>学校も最近建てたところは良いが、市内25校ある。順次老朽化して建て替えなければならなくなってきたときに、学校をどうするのか、子どもの数も減ってきている。北部の小学校区（伊太・相賀・神座・伊久美）の昨年の1歳児の人口を調べたところ、4校で18人しかいなかった。子どもにとって相応しい教育環境には規模も必要。野球もサッカーもできない。人数がいることで多様な価値観に触れる授業をやっている。そうした中で適正な子どもの教育環境として、どうした環境が良いのかこれから考えていかないとならない時代になった。</p>
12	<p>■新病院の医療器具について</p> <p>新病院ができるが、医療器具は全て新しい物にするのか。現在使っている物で10年も20年も使える物は使うと思うが、どうした方法でやるのか。</p>	<p>●基本計画の段階では、医療機器の金額は約40億円を見込んでいる。全部新しくするわけではなく、使える物は新病院に持っていく。先日購入したダヴィンチは3億5千万円。そうした物もしっかり使っていかなれない。医療機器の減価償却は5年間。5年で借金を返さないとならない。</p>

		建物は30年で返せばよいが、医療機器はなかなか大変。良い物を導入しても10年経てば古くなる。目まぐるしく変わる中で、医師が必要とする医療機器を揃えていくことは、病院の経営も大変な時代になってきている。
13-1	<p>■東町御請線について</p> <p>谷口橋の向こうに新しい道路を造っている。学生が自転車で手前を左に曲がって通っている。大変な思いをしているので、いつ頃開通するのか。</p>	<p>●5年かけて整備をしてきた東町御請線だが、予定では平成29年3月末に開通式を開催したい。現在、仮の道路で自転車等渡っているため危ないと思われる。国も県も一生懸命年度内に終わるように急ピッチで整備している。</p>
13-2	<p>■右折レーンや信号機も付くのか。</p>	<p>●信号機も付くと思う。信号機無しでは難しいと思う。道路整備により六合駅周辺の渋滞が緩和されるのではないかと期待している。</p>
14-1	<p>■新幹線新駅について</p> <p>新幹線新駅の話が消えてしまった。静岡空港の活性化と島田市が発展するためには新駅が必要。JRとしてはやる気が無いと噂を聞いている。今までの新幹線新駅を造った経緯を見ると、掛川駅や新富士駅は地元が負担をして駅の整備をした。そういうことでないとJRも乗る気がしない。もし地元が負担をするにしても、赤字になるような駅を造っても受けるわけがない。県知事は、「新幹線新駅は必要である。活性化のためにもJRと話をしたい」としているが、どうなっているのか。</p>	<p>●込み入った話までできない課題だが、今、新幹線新駅はどこにできると思っ話をしているのか。</p>
14-2	<p>■案は色々あると思う。例えば、トンネル内に駅を造ってエスカレーターで上がることはJRも経験が無いし、無理だと言っている。一番近い所だと初倉側もあるが、初倉側はカーブになる。カーブに駅を造るのは熱海駅くらいしかない。危険でもある。そうすると、大井川の東側は藤枝になる。焼津市や藤枝市にしてみれば、是非藤枝側という要望もあると思う。</p>	<p>●知事は、そのようなことは一切考えていない。空港と新駅は一体という考え方を持っている。知事は、2020年の東京オリンピック時に、お客さんを羽田空港だけでは迎えきれないため、首都圏第三空港としてどうかと言っている。大規模災害時における拠点となるために新駅も必要ではないかと言っている。</p> <p>トンネル内に駅を造ると言ったが、例えば、静岡駅に「こだま」が停まっている間、「ひかり」や「のぞみ」が通過していく。トンネル内には、引き込み線が無いため駅は造れない。どこに造るかも含めて、時期的なことも難しいと思っている。JRは、恐らくリニアができるまでは話に乗らない、今は一切関係無いというスタンスだと聞いている。リニアは2027年を</p>

		<p>目標にしていると聞いているので、その頃にどうなるかということ。</p> <p>地元負担金の話もあったが、10億20億円の話ではない。病院に約250億円のお金がかかり、市役所の建て直し、金中跡地等、色々なところにお金がかかる中で、これは国と県に整備していただきたいという考えを持っている。あまり大きく島田市が「新駅が欲しい」と言うと、「島田市が負担してくれるのか」と言われてしまうため、国と県に整備していただけるようお願いをしていく。しばらく見守ることが良いと思っている。</p>
<p>15-1</p>	<p>■病院から在宅について</p> <p>病院から在宅へという話が出たが、私たちは年齢的にお世話される方になる。子どもたちが仕事を辞めてまで介護をする実情を聞く。そのようなことがないように、公の機関で支援してほしいと思う。</p> <p>親を見送った私たちの世代でも、どちらかと言えば、家でというより、お金で済むなら公の所だというのがある。時代の流れで変わってきて、病院から在宅へとなり、公の機関で応援してほしい。</p>	<p>●介護保険ができた当時、親を施設に入れると「あの家は親を施設に入れた」と言われる雰囲気があった。10年の間に瞬間にそれが当たり前になった。介護保険制度は、それだけ負担を軽くしたと思う。今度は在宅へと言われても、その流れを逆にすることは大変難しい。実際働いている方が、昼間寝たきりの親を家に置いておくことはできない。</p> <p>在宅医療は、地域の見守りと同時に、安心して在宅でいられる支援が必要。島田市は、平成28年4月から24時間訪問看護ステーションをつくり、医師の指示書で真夜中でも看護師が行って治療をする。必要なら病院に入院してもらい、治療をして様子を見ることもある。</p> <p>首相も介護離職ゼロについて言っているが、制度の中にも矛盾があると思う。一人暮らしの方はヘルパーをお願いできる。例えば、子どもと2人暮らしで、子どもが昼間働いていて家に居ない、ほとんど一人暮らしと同じでも、子どもがいるため受けられるサービスが変わってくる。そうした現実を見据えたとき、今のサービスでよいのか課題がある。</p> <p>少し認知症が出てきて一人でのいるのは心配な方々を預かる場所、家族が出かけるときに預け、帰りに引き取って帰るような、そうしたものもこれから出てくるのかと考える。会社の中には、社員が辞めないですむように、そうしたことを考えたいと言う事業所も現れてきた。</p> <p>今言われたことはその通りだと思う。施設（病院）から在宅へと言われても、在宅ばかりで看取れない。そうした中、グループホームや入所施設</p>

		<p>はこれからも増えると思う。特別養護老人ホームは、住民票を移している ので在宅になる。住民票を移すということは、そこに住んでいるというこ となので在宅にカウントされる。制度の難しいところがある。在宅という と自宅とってしまうが、特別養護老人ホームは在宅にカウントされるこ とになる。</p>
<p>15-2</p>	<p>■例えば、「みどりの園」と「ほたるの丘」では、金額に違いがあるの か。</p>	<p>●特別養護老人ホームは、国や市の補助金が入るため、優先順序を点数化 している。例えば、身寄りがいない、認知度等がポイント化されて優先順 序から入っていくので所得は関係無い。 所得によって、お金無しで入所している方もいるし、お金を払って入所 している方もいる、それは所得によって変るが、入る順番は優先度が高い 方から入ってもらう。</p>
<p>16</p>	<p>■大井川鐵道等の経営状況について 大井川鐵道の経営状態や、川根温泉ホテルは利益があるような経営が できているのか。</p>	<p>●大鐵の経営は、新しい経営者（エクリプス日高）に替わり、その時に借 金を引いてもらって経営移譲をした。7年間くらいは、新しい投資をする にはメインバンクの許可が必要等の制約はあるかもしれない。経営は大き な黒字にはなっていないかもしれないが、企業努力をして一生懸命大鐵の 経営をしている。 川根温泉は、指定管理料をゼロで「時之栖」に経営を任せている。利益 の2割を市に入れる契約をしている。初年度から毎年入れていただしてい るので利益は出ている。利益といっても大きく儲けても困る。大きな黒字 も、赤字も困る。 川根温泉の話が出たので、川根温泉にメタンガスで発電する施設をつく っている。4月から稼動して、川根温泉ホテルの年間電気使用量の6割か ら7割が賄えるのではないかと思っている。鉱山法が改正され、全国初の 開発許可が出て実施しているので、全国から視察が大勢来ると思う。二酸 化炭素に比べてメタンガスは25倍の温室効果ガスなので、そうした物質を 外に出すよりは有効活用したい。 平成29年度中には、市内全体で使う電気量の37%が再生可能エネルギー</p>

一（太陽光、水力発電、メタンガス、バイオマス、田代の郷のゴミを焼却しての発電）で賄える。全国でもトップクラスの再生可能エネルギー先進都市になる。新東海製紙がバイオマス発電を所有していることが大きな力になっているが、こうしたこれまで着目してこなかったところも、環境という切り口の中で島田が伸びていく大きなチャンスだと思う。

※ 3の回答以外、全て市長から回答した。

④当日の様子

